子どものネットリスク教育研究会
ニュース ＆ 研究小論紙 編集：内山･大谷 担当：内山陽子
2021.9.16　8・9月号
９号　通巻６３号

本会初開催！「第１回合同研究発表会」2021.8.28（土）

今回、研究団体として長年の懸案であった標記発表会を会員の皆さまのご協力のもと、開催することができました。その概要の報告をします。

開催に当たっての挨拶　【大谷良光：本会代表】

研究会発足(2015.5)から６年目、ようやく研究会の目的である研究成果を発表・交流することが、専門研究委員会各部門合同の研究発表会として、ここに開催できたことを大変嬉しく思い、皆さまに感謝いたします。

現在専門研究委員会は、８部門に３６名の研究員がおります。一般会員、支部会員の皆様で一緒に取り組んでみたい方、是非、専門研究員になってください。キーポントは、ネットリスクに関心のある方、実践から学んでいく、研究方法を学び、社会に発表してみたい方などです。

発表会を終えて　【本間史祥：筆頭副代表、専門研究委員会委員長、青森県支部長】

最終参加者（後日 YouTube 動画視聴を含む）は５０名になり、成功裏に終えることができました。お忙しい中、準備をしてくださった各部門の発表者並びにチーフ、部門メンバーに感謝です。研究会という冠がありながら、なかなか研究発表会ができなかったジレンマがあり、今回、開催に至ったことで、少しでもネットリスク研究の発展に寄与できたのであれば幸いです。

さて、今回の研究発表会では、各部門（脳・学力、睡眠・運動器、視聴覚、乳幼児、ネット依存、対策・取組）の発表資料をまとめ、下記の『資料集』を発行させて頂きました。（あくまでも内部勉強会用資料としての提供ですので、一般向けには提供しておりません。ご興味がございましたら、事務局まで連絡ください）

部門名	演　　題
脳・学力	ゲーム依存・SNS 依存への脳のメカニズム （ドーパミンの分泌と耐性について）
睡眠・運動器	子どもたちのメディア接触と体力低下
視聴覚	乳幼児の視覚の発達について
乳幼児	乳幼児のメディア接触 ～実態アンケートの結果と考察～
ネット依存	子どもたちのはまり込むコンテンツとは？ e スポーツはネット依存を助長するのか
対策・取組	教師の情報モラル調査より

☆参加者の皆様のアンケートから

・みなさん、丁寧に準備をされていると思いました。　「わかりやすい」「伝わりやすい」の根底には、深い専門的な知識があったほうがよいです。その点で、専門委員の存在意義は深いと思います。　一方、専門的に突っ込んでいくと、いろいろ伝えたくなることが増えます。しかし、伝える相手に必要な情報と伝え方を考えた時、深い知識を噛み砕き、さらに情報量をすごく絞り込んでいかないといけないです。ただ、ここは専門委員とは別の技能…啓発を担う人に求められるスキルかなと思います。

・今回、この合同発表会を知り、オンライン参加させていただいて非常によかったと感謝、感動、感激しています。お忙しい中、調査研究し、発表準備し、ご苦労もあったかと思います。大変、頭の下がる思いです。みなさま方の活動、活躍が、今後の子どもたちの未来を担っていくものだと思っています。発表、お疲れさまでした。また、貴重な発表を視聴させていただきありがとうございました。

講評と感想　【戸高成人：THInet 団体役員、専門委員会参与、NPO 法人ネットポリス鹿児島】

- 演者の皆さま、ご苦労様でした。本日参加の皆さまにとって、実りある学習会になったと思います。
- GIGA スクールが始まりました。肯定的な方の意見は、学習機能が一段と高まることにより成果物が得られると言い、否定的な方は、情報モラル教育が行き届いていないだとか、子供に持たせると何をするかわからないよという意見が圧倒的に多い。
- デジタル・シティズンシップ教育に関しては、平成 18 年に三菱研究所が初めてこの教育について発表し、昨年、今年の３月にも研究会の発表があった。内容はネット社会や倫理、ネット社会での規範に関することが主体になり、いかに安心・安全に利活用していくかが目的になっている。にもかかわらず、この中で、子供の体や心の成長に多大な支障が与えられるということは、一切、触れられていない。
- 子供たちの脳細胞は、１０歳までにひと通り成長し、１０歳から２０歳まで機能が高まる完熟期間である。世間一般の人たちに、このことが知られているかというと、残念ながら学校現場の先生にも周知されていない、乏しい状況である。
- 対策として、これをどのように広め、周知していくのか、ここに参加されている皆さまが担う事と思う。
- 乳幼児については、親がしっかり管理してあげること。小学校高学年からは、自らが律するためにいかに自己管理能力を高めるのかが大事である。今の教育に求められていることでもある。
- これらを理解しながら地域社会を含めて学校を助け、未来を担う子供たちを守り、育てるかを根底に、考えていくことが大切である。今日の研究成果を広め、活用して欲しい。

子どものネットリスク教育研究会　オンライン学習会

依存傾向者の子ども・家族へのアプローチ

子どものネットリスク教育研究会専門研究委員会「ネット依存」部門では、依存傾向者の子ども・家族への効果的なアプローチ方法を研究しております。その中で家族支援の一つの手法として、「CRAFT（コミュニティ強化法と家族トレーニング）」が注目されています。元々は飲酒や薬物依存に悩む家族のためにアメリカで開発されたプログラムです。

本学習会は、CRAFT をネット依存・依存傾向者の子どもや家族に応用して、臨床・研究を行っている（株）KENZAN/MIRA-i の森山沙耶さんからレクチャーして頂きます。また、研究会から❶依存傾向者へのアプローチとして、信頼障害仮説❷デジタル・シティズンシップ教育についての情報提供をいたします。

【日　時】9月23日(木･祝日) 9:00～11:00

【開催方法】オンライン開催

参加申し込みされた方にオンラインミーティング用の ID とパスワードを送ります。

【内　容】

- **CRAFT とは？（講師：森山沙耶氏）**
- **情報提供　～信頼障害仮説とデジタル・シティズンシップ教育～**

【講師紹介】

森山　沙耶氏　（株）KENZAN /ネット・ゲーム依存予防回復支援 MIRA-i（ミライ）

臨床心理士、公認心理師、社会福祉士

2012 年東京学芸大学大学院教育学研究科修了後、家庭裁判所調査官としての勤務を経て、大学病院や福祉施設にて心理臨床を経験。2019 年 MIRA-i の設立に携わる。現在はネット・ゲーム依存専門心理師として、カウンセリングや講演活動を行う。

【参加申し込み】

（1）以下の QR コードを読み込み、参加申し込みフォームに必要事項を入力する。

（2）kodomo.netrisk@gmail.com に❶ご氏名❷ご所属を明記し、メールを送る。（件名は子どものネットリスク教育研究会学習会参加申込）※お問い合わせも上記アドレスにお願いします。

【その他】

当日参加できない方のために、学習会の様子を録画した動画を YouTube 限定公開で公開する予定です。その場合も kodomo.netrisk@gmail.com に連絡ください。

主催：子どものネットリスク教育研究会　専門研究委員会

本学習会は基盤研究（B）「不健全なインターネット利用により顕在化した健康被害の実態調査と啓発プログラム開発（代表：群馬大学伊藤賢一）」の協力のもと実施いたします。

☛オンライン学習会のご案内

- **参加費無料！今すぐ申し込みください！**
- **用事があり無理な方も大丈夫！！YouTube 動画視聴の申し込みができます！**

【編集後記】

日中と朝晩の寒暖差で、自律神経が乱れ（秋バテ）不調を感じられていらっしゃる方はいませんか？体調がよくないと感じるのは、どこかでバランスが崩れている証拠！

バランスを維持するために大切なのが食事（栄養）、睡眠（休養）、運動。なんとなく調子が悪いと感じたら、日頃の生活習慣を見直し、バランスを整えることを心がけましょう。

そして学習会にご一緒しましょう！

👍連絡先 E-mail
kodomo.netrisk@gmail.com